

2019年度 事業報告書

社会福祉法人共和福社会

2020年6月5日

2019年度 社会福祉法人 共和福社会事業報告

2019年度は、重要課題の1ユニット(入所定員10名)再開に必要な介護人材と入所定員の確保に取り組みました。介護人材の面では大半を派遣職員に頼ったため定着率が悪く、必要数の確保に至りませんでした。また入所定員数についても全体の要介護度が高く推移しているため死亡等による退所者が多く、満床にすることができませんでした。

資金収支において収入面では、ショートステイとデイサービス部門の増収で入所部門をカバーし前年比13百万円増、介護支出面では、派遣職員の採用比率が上がった影響で人件費が増加、その他事業費・事務費は前年比横ばい、最終収益では2.3百万円(前年比44百万円増)の黒字となりました。

1. 利用状況について

- (1)入所は定員(81名)に対して65.1名/日(80.4%)、前年は66.6名/日(82.2%)
- (2)ショートステイは定員9名/日に対し、入所の空床利用により13.9名/日(154.4%)と入所のカバーを行いました。前年は9.9名/日(110.0%)
- (3)デイサービスは定員32名に対して27.9名/日(87.2%)前年は26.9名/日(84.1%)
- (4)入院者数については2.9名/日、前年は3.7名/日

※入所は介護職員不足により、ワンユニット(定員10名)閉鎖中のため実質定員数は71名、ショートステイの定員9名に加え入所・ショートの実質定員は80名となっています。

よって(1)の実態は定員71名に対して65.1名(86.7%)となります。

2. 入退所者の状況について

新規入所は22名(前年11名)、退所は28名(前年16名)で、前年と同様に退所者の割合が上回りました。現在、要介護度の高い入所者受入(日常生活継続支援加算Ⅱ)を行っており、平均要介護度も4.08(前年3.78)と徐々に上がっています。そのため体調不安定な入所者も増え、入院等による退所のリスクが大きくなっていることが増加原因となっています。

入院者数については、看護科による体調不良者の早期発見と迅速な対応を徹底した結果、入院者数を減少させることが出来ました。

看取りについては9名(前年7名)看取り対応を行いました。職員の看取りレベルの向上もあり、家族から感謝の言葉が多く寄せられました。

3. 人事面について

介護職への入職者36名(うち常勤7名 非常勤7名 派遣22名)(前年20名)、
退職者33名(常勤7名 非常勤8名 派遣18名)(前年17名)
看護科の入職者8名(派遣8名)(前年は3名)、退職者8名(非常勤1名 派遣7名)
(前年2名)

求人媒体は、ハローワーク、一般求人広告、派遣会社を利用し、介護科の採用者は前年比 180%と数多く採用することができましたが、採用の 61%を占める派遣職員の定着率が低く、1~3 ヶ月以内の退職者が 18 名 (82%)ありました。下半期からの対策として入職後の面談回数を増やし業務習得上の本人の気持ちや悩みを汲み取るようにした結果、徐々に定着するようになっていきます。当面は、派遣媒体による人材を主力に受入れ、定着化を図り、プロパー職員へ登用する一連のプロセスを推進し、人材のサポート体制と併せ正規職員の確保に繋がります。

4. 感染予防対策について

2019 年度も面会者や職員を対象に感染予防のポスターによる啓発、感染予防対策研修、手洗い・マスク着用の励行を実施、併せて施設の手すり・ドアノブ等の消毒(11 月~翌 3 月)を行いました。

インフルエンザは 1 月に利用者 1 名、職員 1 名が感染するもそれ以上の感染の広がりには至りませんでした。

2 月末以降は世界的な新型コロナウイルス感染拡大の兆しに対応し、職員・面会者・業者の施設入苑時の検温・手洗いと消毒・マスク着用を基本とする予防対策を啓発しています。

現状施設利用者や職員に感染者は発生していませんが、今後も厚生労働省や大阪府から発信される情報を中心に適切な予防対策を実施し、施設の利用者様に感染させることのないよう最善の努力を行います。

5. 介護事故について

2019 年度はヒヤリハット 673 件(前年比 24 件)、事故 268 件(前年比 97 件)でした。

今年度は、早期発見を目標に掲げ、定期的な身体チェックを行い、それぞれの事故件数が前年比大きく増加しました。事故内容においては外傷・皮下出血が 541 件と最も多く今後の課題となりました。発見後の対応は必ず事故内容や状態・治療方法を家族様へ速やかに伝えていることが安心と信頼を得る結果になっています。

課題の事故防止については事故委員会の中で防止策を議論し意見集約した上で具体的な対策をまとめ実施していきたいと考えています。

6. 行事・食事について

年間行事として行っている、9 月の万寿苑祭りに利用者 80 名、家族等 155 名(2018 年度は利用者 80 名、家族等 144 名)が参加しました。地域のお店や地域ボランティアの協力もあり、それぞれ楽しい時間を過ごしていただくことができました。

その他にも、花見・運動会・園児交流会・祭りのだんじり見学・盆踊り・遠足・鶴橋風月のお好み焼き実演・餅つき・新年会・節分豆まきを実施しました。また各ユニット単位での食事レクリエーションを年間延 33 回実施し、たこ焼き、おはぎ、ベビーカステラ、誕生日ケーキ等普段食べられないものを中心に職員と一緒に調理し喜んで頂きました。

7. 職員教育について

- (1) 外部参加型研修 9 回(前年 23 回)
- (2) 救急訓練 0 回(前年 3 回)
- (4) 苑内研修 16 回(前年 23 回)
- (5) 外部講師研修 0 回(前年 1 回)
- (6) 第 6 回万寿苑学術発表会 3 演題発表(前年も実施)

退職職員が多く既存の職員の残業時間が増加したことが影響し、予定していた研修の一部取り止めや予定回数を減らす結果となりました。引続き適正な職員数の確保と定着化を図り、職員に力を注いでいきます。

8. ワンユニット再開について

今年度も再開するために必要な介護職員数が充足できず次年度へ持越しすることになりました。主な原因は介護職員採用者数の 61%が派遣会社より受入れた職員であったため、短期間での契約終了等定着率が低く、再開に必要な人材確保にまで至りませんでした。次年度は再開にむけて介護人材と入所者の確保を並行して行う為に重度者(要介護 4・5)受入れの加算算定を一時的に中断し、入所者の対象枠を拡大し早期に空床を埋めていきます。